

第 11 回小諸新校再編実施計画懇話会

日時：令和 4 年 5 月 16 日（月）

18 時～19 時 30 分

会場：小諸市役所 3 階

第 1・第 2 会議室

<次 第>

1 開 会

2 挨 拶

3 会議事項

(1) 第 10 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめについて

(2) 施設設備に係る新校の学びの具体例について

(3) 小諸新校の校名選考について

4 その他 <次回の予定>

○第 12 回小諸新校再編実施計画懇話会

【日時】 令和 4 年 8 月 18 日（木）18 時～19 時 30 分

【会場】 小諸市役所 第 1・第 2 会議室

【内容】 施設整備・校名選考について等

5 閉会

小諸新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○ = 新構成員

区分	氏名	所属等
自治体	田中 尚公	小諸市 副市長
	山下 千鶴子	小諸市教育委員会 教育長
	市川 美香	北佐久郡町村教育委員会連絡協議会 御代田町教育委員
産業界	塩川 秀忠	小諸商工会議所 副会頭
	○宮崎 翔平	小諸青年会議所 理事長
	清水 信	さくさく農園 代表 (小諸市PTA連合会 会長)
学識経験者	西村 廣一	元小諸高校・小諸商業高校校長
地域	甘利 庸子	のぞみグループ 代表取締役社長
	高橋 功	佐久地域振興局 局長
同窓会	高見澤 敏光	小諸商業高等学校同窓会 会長
	鷹野 昭裕	小諸高等学校同窓会 会長
PTA	田島 幸子	小諸商業高等学校PTA 会長
	土屋 邦子	小諸高等学校PTA 会長
学校関係者	○塚田 直道	小諸市校長会 会長
	鹿取 俊彦	小諸市内中学校代表 校長
再編対象校	岩下 愛美	小諸商業高等学校 生徒会長
	小林 太	小諸商業高等学校 生徒会副会長
	小林 あやの	小諸高等学校 生徒会長
	根岸 悠希	小諸高等学校 生徒会副会長
	○坂口 健之	小諸商業高等学校 校長
	原 周一郎	小諸商業高等学校 教諭
	井村 敏明	小諸高等学校 校長
	木住野 修平	小諸高等学校 教諭

事務局 ○ = 新事務局員

小諸商業高等学校		小諸高等学校		高校再編推進室	
○三宅 浩一	(教頭)・事務局長	細萱 裕樹	(教頭)・副事務局長	○山岸 明	主幹指導主事
原 周一郎		木住野修平		○柳沢 勝美	主任指導主事 (小諸新校担当)
中村 幸司		○山浦 雄介			
浅沼 光貴		井出 玲子			
中山恵理奈		坂口 俊夫			

第 10 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和4年(2022年)3月25日(金) 18時00分～19時00分(17:30～オンライン会議入室)		
方法	Zoomを用いたオンライン会議		
出席	懇話会構成員23名		
欠席	懇話会構成員1名	傍聴者	傍聴2名、報道2社
事務局	小諸商業高校	藤澤教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、浅沼教諭、中山教諭	
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、甲田教諭	
	県教育委員会	上原主幹指導主事、高野担当係長、柳沢敬主任指導主事	
当日資料	第10回懇話会次第、第9回懇話会まとめ、 小諸新校(仮称)再編実施基本計画(2月7日 教育委員会定例会資料)、 小諸新校 議会同意後のスケジュール(予定)について <参考資料> ○校地選定について ○新校の学校像、○長野県スクールデザイン2020(抜粋)		

会議事項

- 1 報告 (1) 第9回懇話会まとめ
- 2 会議 (1) 再編実施基本計画について (2) 今後のスケジュールについて
- 3 連絡事項 次回懇話会開催 令和4年5月16日(月)小諸市役所第1・第2会議室

意見交換

【事務局からの説明】

- ・2月7日県教育委員会定例会の資料説明(第9回懇話会からの修正点等)
- ・令和4年度の懇話会の内容とスケジュールの概要について
- ・「地域連携を含めた小諸新校の施設整備」をテーマとするシンポジウムの開催について
県立学校学習空間デザイン検討委の報告書に基づく校舎整備の概要について広報し、新校への関心を高める。

【再編実施基本計画、今後のスケジュールについての意見交換】

- 学校像に示される新校が、いよいよ実現することを実感。楽しみにしている。
- 再編実施基本計画の内容に期待をしている。意見をまとめ具体的な方向に進めていただいたことに感謝。
- 動き出したと感じる。今後スムーズに進むことを期待。地域連携協働室は行政からも常駐してもらえるとよい。また、探究的な学びが一層進むことも期待。一点、業者が決まったように受け取ったが、その点はどうか。
➡地域連携協働室は地域と高校生のスムーズな接続を目指す。自治体、学校双方が常駐した形態を実現。業者は決まっていない。シンポジウムは、目指す学びを実現する施設整備を一緒に考え、具体的な条件を整理して全国に発信することで、最適な業者選定に繋げることが目的。
- 小諸新校には、周辺の市町村からも入学者が多いと予測。御代田町など近隣の自治体との連携にも期待。
- 地域連携協働室で小中学校の生徒会や地域と繋がることで、教育内容やカリキュラムが広がる。新校の柱となり、大きな役割を担っていく仕組みができれば良いと思う。
- 情報発信を重視したサテライトスタジオの構想は、子どもたちを地域から世界へ繋げ、世界からも地域からも高校を見ることができる。とても新しい発想で、是非実現してほしい。
- 生徒のことを考えてもらっていると感じ、ありがたい。去年から参加しているが、日程等が具体的に示され、現実的になってきたことが嬉しい。
- 校名や教育内容等、いよいよ現実的な話となり楽しみにしてきた。この先100年を見越した校名に期待。
- 学校像がわかりやすくなった。「共創」という言葉が嬉しい。施設整備も出席者や関係者、子どもたちが関わり現場を大事にする設計がされていくことを実感する。
- 地域連携室等を使い中学と高校の連携進展に期待。小中学生が新校に夢を持てるようにすることが大切。

「長野県スクールデザイン 2020」の実装にむけて

～探究的な学びを進めるための学校施設整備～

小諸新校

<スクール・ミッション>

地域を舞台に多様性を重視し、グローバルな視点で未来を創造する、3科融合校

<スクール・ポリシー>

- ・地域をフィールドとした協働的・探究的な学びを通して、地域の発展に貢献できる「課題発見力」や「探究力」を育む。
- ・グローバルな視野で、コミュニケーション力や多様な観点から批判的に考察する力を育む。
- ・主体的な学びを通して、自らの可能性と未来を切り拓く力や、より大きな夢に挑戦する力を育む。

○小諸共学共創コンソーシアム・・・地域の人々と共に学び、地域の未来を共創

*具体的な取組み例

- 地域連携協働室を活用した地元企業との商品開発
- 地元企業と連携したデュアル実習の充実
- 地元ケーブルテレビ局のサテライトスタジオを設置し、生徒の活動を発信
- 市議会と連携した地域社会への提言
- 子供向けレスリング教室や訪問演奏
-

○学科・教科横断型の授業を展開、実社会をフィールドとした3科のハーモニー

*具体的な取組み例

- 3科（商業科、普通科、音楽科）でコンサートをプロデュース
- ミュージックカフェ経営
-

○主体的・協働的に生き方や学ぶ意義を考える、小諸新校独自の探究的プログラム

- ・テーマに沿って生徒自身が調べ、考え、まとめ、発表する授業展開
- ・生徒自身が学ぶことの意義を見出し、自己理解、他社理解を深め、思考を止めないように4時間連続授業を基本とする。

*具体的な取組み例

- 小諸新校探究プログラム（小諸商業のビジネス探究プログラムがベース）
-

第1期高校再編時の校名選考について

【参考事例：須坂創成高校、佐久平総合技術高校、大町岳陽高校】

1 検討組織について

- 校名選考委員会（人数 14～17 人）を設置
- 検討委員会の構成
地域（義務教育関係・広域連合・有識者等）、同窓会、PTA、統合校（校長・教員）

2 選考方法について

- 校名案を公募し、校名選考委員会にて選考
- 二段階または三段階の選考ののち校名候補 1 案を決定
 - ・応募のあった校名案を事務局で整理（選考の観点に合わないもの、同名のもの等）したものを一次選考候補とする
 - ・一次選考結果に、検討委員の案を加えたものを二次選考候補とする（須坂創成）
- 選考の観点

須坂創成	佐久平総合技術	大町岳陽
①新校の理念である「地域に根ざし世界に羽ばたくことのできる実践力の育成」にふさわしい名称であること。 ②須高地域の総合技術高校として、地域の願いに応え、地域の人々に愛され親しまれる名称であること。 ③須坂商業高等学校と須坂園芸高等学校の歴史や伝統を引き継ぎ、これから育てる生徒達に思いを馳せ、未来を見つめた名称であること。	① 3校の統合として分かりやすいこと。 ② 地域に根ざした学校名としてふさわしいこと。 ③ 新校に対する地域の願いや期待が表出されていること。 ④ 新校の特徴が表出されていること。	①校名は「長野県 ～ 高等学校」とする。 ② 地域に根ざした学校としてふさわしいこと。 ③ 新校に対する地域の願いや期待が表出されていること。 ④ 未来に向かって育っていく生徒にふさわしいものであること。 校名候補から除外する観点 ① 英文字を含むもの ② ひらがな、カタカナを含むもの ③ 著しく不適切なもの ④ 同名の施設等があるもの（ただし「大町育英」のように大町〇〇は残す）

3 公募方法について

- ① 期間：1 か月
- ② 内容：新校名案と提案理由
- ③ 方法：応募資格の制限はなく、郵送、FAX、電子メール、統合校事務室への持参

4 その他

- 校名候補決定後、記者会見を開いて校名候補、選定理由について選考委員長が説明

小諸新校校名検討について

新校に関する情報発信を円滑に行うため、早期に校名（仮称）^注を決定する必要があることから、令和4年度の懇話会で校名候補を検討することとする。

注) 令和5年度 夏休み前には、教育委員会定例会で決定（仮称）
令和7年度 県議会11月定例会で正式決定（高等学校設置条例の一部改正）

1 検討組織について

「新校再編実施計画懇話会」にて検討する。

- ・過去の事例（須坂・佐久・大町）では「校名選考委員会」を設置していたが、委員構成が「懇話会」の構成員と同様であることから、「校名選考委員会」は設置しない。

2 進め方について

選考方法等について新校準備委員会が検討し、懇話会で意見交換のうえ実施する。

第11回懇話会（5月16日）

- ①過去の事例紹介 ②校名選考の進め方、スケジュールについて

第12回懇話会（8月18日）

- ①校名募集要項（案）について ②広報について

第13回懇話会（11月～12月）

- ①公募結果の説明 ②校名候補の一次選考

第14回懇話会（1月～2月）

- ①校名候補の決定（最終選考） ②今後のスケジュール

3 その他

- ・校名候補決定後、再編対象校校長から教育委員会へ意見具申
- ・同じ校名がないか、権利侵害がないか等について調査
- ・令和5年度の教育委員会定例会での決定を目指す

小諸新校 校名募集要項（素案）【概要】

公募期間	1か月
選考の観点	<p>①校名は「長野県 ～ 高等学校」とする。</p> <p>②「学科・教科横断型の学び」のできる普通科・音楽科・商業科が融合した校名として分かりやすい名称であること。</p> <p>③「地域と連携した本物の学び」を進める学校として新校に対する地域の願いや期待が表出されていること。</p> <p>④小諸高等学校と小諸商業高等学校の歴史や伝統を引き継ぎつつ、新たな学びのできる学校として、未来に向かって育っていく生徒達にふさわしいものであること。</p>
選考方法	<p>校名選考にあたっては選考の進め方や方法、公募結果、選考結果を懇話会にて報告し、意見交換を行った上で実施する。</p> <p>〔一次選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公募結果を参考に懇話会で校名案を3案にしぼる。 ・校名案の再検討を含め、構成員からの案を二次選考の候補に加える。 <p>〔二次選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次選考結果の3案に、構成員からの提案を加えた案を二次選考候補とし、そこから2案を最終選考候補とする。 <p>〔最終選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次選考結果の2案から校名候補を選考する。
公募方法	<p>①期間：令和4年 月 日 ～ 令和4年 月 日</p> <p>②内容：校名案と理由</p> <p>③方法：応募資格の制限はなく、郵便、FAX、電子メール、事務室への持参</p>